

鶏卵



◆飼養動向

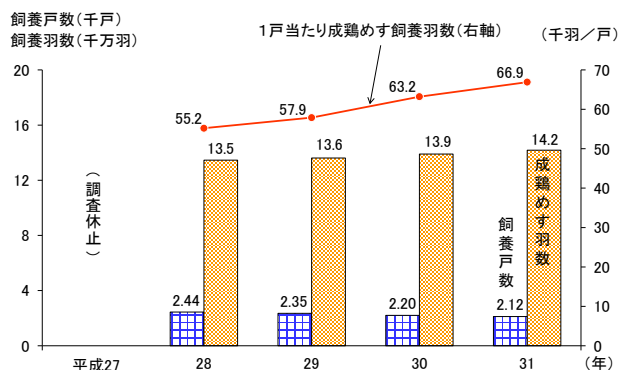
31年2月現在の採卵鶏飼養羽数、前年比0.2%増加

採卵鶏の飼養戸数は、小規模飼養者層を中心に減少傾向で推移しており、平成31年は2120戸（前年比3.6%減）となった。一方、飼養羽数は大規模化による集約の進展により増加傾向にあり、31年は1億8237万羽（同0.2%増）となった。このうち、実際に産卵を行う成鶏めすの飼養羽数は、1億4179万羽（同2.0%増）と前年をわずかに上回った。

成鶏めすの飼養戸数および飼養羽数を飼養規模別に見ると、飼養戸数は全ての階層で減少した一方で、飼養羽数は飼養規模の大きい階層で増加した。

この結果、1戸当たりの平均成鶏めす飼養羽数は前年から3700羽増となる6万6900羽（同5.9%増）と前年をやや上回り、生産規模の拡大が進んでいることがうかがえる（図1）。

図1 採卵鶏の飼養戸数および成鶏めす羽数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」、「家畜の飼養動向」
 注1：各年2月1日現在。
 2：成鶏めすとは、種鶏を除く6カ月齢以上のめすをいう。
 3：飼養戸数は、種鶏およびひな（6カ月齢未満）のみの飼養者および成鶏めす羽数1千羽未満の飼養者を除く。
 4：平成27年および令和2年は農林業センサス実施年のためデータなし。

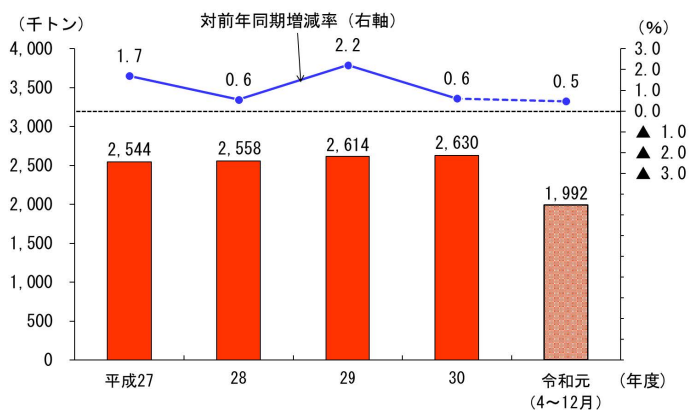
◆生産

元年度(4~12月)の生産量、前年同期比0.5%増加

鶏卵生産量は、これまで250万トン台前後でおおむね安定して推移してきたが、近年、好調な鶏卵相場を受け、生産者の増産意欲が高まっており、増加傾向で推移している。平成30年度は263万448トン（前年度比0.6%増）と過去最高となった。

令和元年度(4~12月)は199万1734トン（前年同期比0.5%増）と前年同期をわずかに上回って推移している（図2）。

図2 鶏卵生産量の推移



資料：農林水産省「鶏卵流通統計」
 注：令和2年1月以降のデータは未公表。

◆ 輸 入

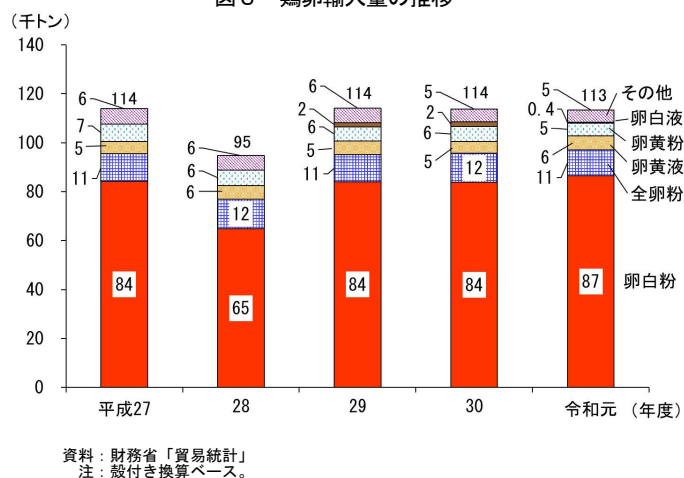
元年度の輸入量、前年度比0.4%減少

鶏卵の輸入量（殻付き換算ベース）は、国内消費量の5%程度で推移しており、ほとんどが加工・業務用向けとなっている。また、輸入量の約9割が保存性に優れ、輸送コストの安い粉卵であり、そのうち大半を占める卵白粉については、ハム・ソーセージのつなぎ原料や即席乾燥麺などに使われている（図3）。

主要な供給国である米国で発生した高病原性鳥インフルエンザの影響から、卵白粉の国際価格が上昇したことなどにより、平成28年度は10万トンを超えて減少した。

卵白粉の国際価格が落ち着いたことから増加に転じた29年度以降は11万トン台で推移し、令和元年度は11万3296トン（前年度比0.4%減）と前年度をわずかに下回った。

図3 鶏卵輸入量の推移



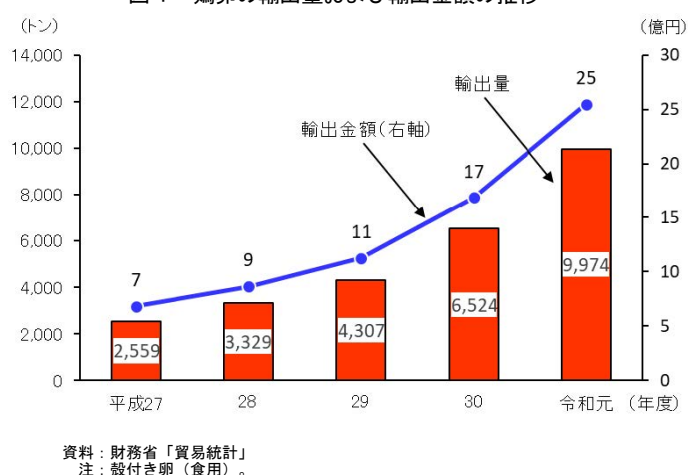
◆ 輸 出

元年度の輸出量、前年度比52.9%増加

鶏卵の輸出量は増加傾向で推移しており、令和元年度は、日本産鶏卵の生食に適した品質を強調したプロモーションの効果などにより、鶏卵（殻付き卵）の輸出量は9974トン（前年度比52.9%増）、輸出金額は25億4934万円（同51.2%増）となった（図4）。

輸出先を見ると、香港（9810トン、24億9258万円）、台湾（88トン、2487万円）、シンガポール（74トン、3026万円）およびグアム（米国）（2トン、164万円）に輸出されており、輸出量のほとんどが香港向けとなっている。

図4 鶏卵の輸出量および輸出金額の推移

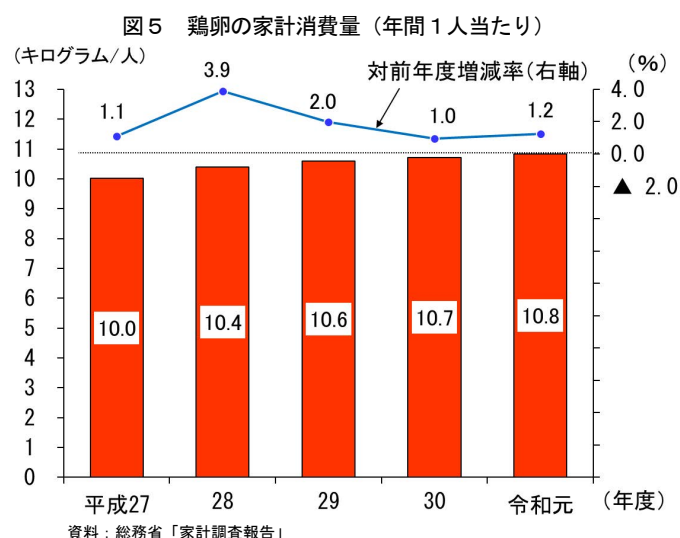


◆消費

元年度の1人当たり家計消費量、前年度比1.2%増加

鶏卵の家計消費量は、テーブルエッグに加え、近年、食の簡便化に対応してコンビニエンスストアなどで販売されている卵加工品の需要の高まりを受けて増加傾向にある。

令和元年度は、年間1人当たりの消費量が10.8キログラム（前年度比1.2%増）と6年連続で前年度を上回った。（図5）。



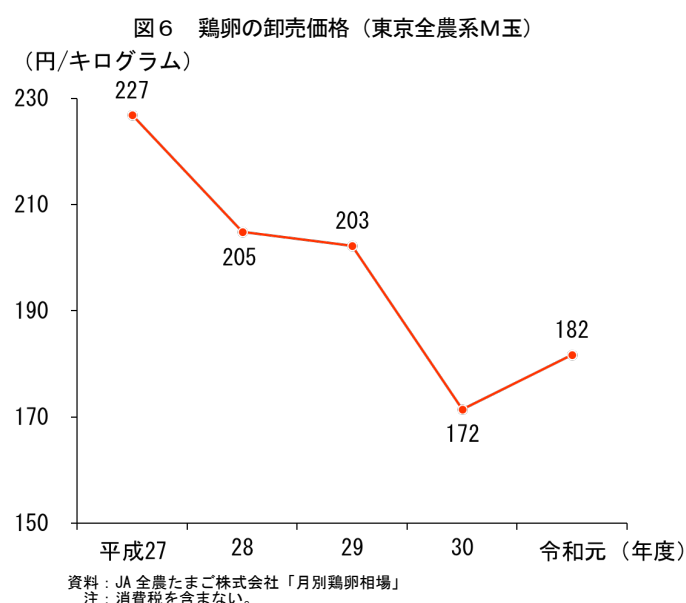
◆卸売価格

元年度の卸売価格、前年度比5.8%高

鶏卵卸売価格（東京全農系M玉）は、夏場の不需要期に向けて低下し、年末の需要期に向けて上昇する傾向がある。

鶏卵を使用したデザートやマヨネーズなどの加工向けを含めた旺盛な需要を背景に、平成27年度まで、卸売価格は上昇基調で推移していたものの、生産拡大が進み、需要を上回る供給が続いたことから、28年度以降、3年連続で前年度を下回って推移した。

令和元年度に入っても生産拡大による卵価の低迷が続いていたが、成鶏更新・空舎延長事業の取り組みや台風被害に伴う供給量の減少などを背景に卵価は回復し、年度後半は前年同月を上回る水準で推移した結果、元年度は1キログラム当たり182円（前年度比5.8%高）と前年度をかなりの程度上回った（図6）。



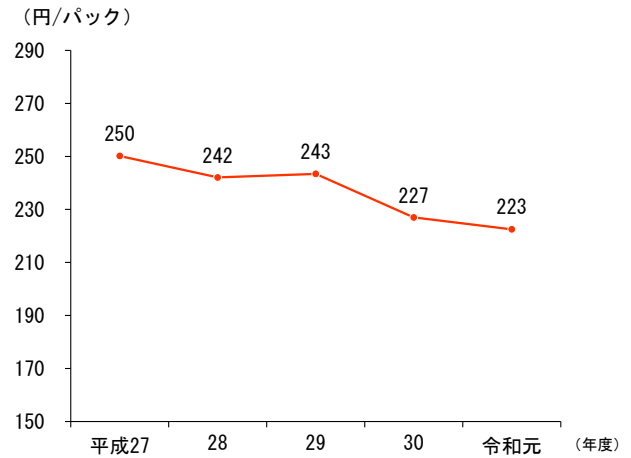
◆小売価格

元年度の小売価格、前年度比1.8%安

鶏卵小売価格（東京都区部）は、国内の鶏卵消費量のほとんどが国内の生産で賄われていることから、卸売価格に影響を受ける傾向がある。

令和元年度は、卸売価格は年度後半から回復し、年度末には前年並みの水準まで上昇したものの小売価格は低迷が続き、1パック当たり223円（前年度比1.8%安）と前年度をわずかに下回った。（図7）。

図7 鶏卵の小売価格（東京都区部）



資料：総務省「小売物価統計調査」

注1：消費税を含む。

注2：価格は、平成29年12月以前はLサイズ。30年1月以降はサイズ混合（卵重「MS52g～LL76g未満」、「MS52g～L70g未満」または「M58g～L70g未満」）。